



質の経口ばく露による健康リスクについては、現時点では作業は必要ないと考えられる。

吸入ばく露については、無毒性量等が設定できず、健康リスクの判定はできなかった。なお、参考として吸入率を 100 % と仮定し、経口ばく露の無毒性量等を吸入ばく露の無毒性量等に換算すると 1.3 mg/m<sup>3</sup> となるが、これと予測最大ばく露濃度 0.00017 µg/m<sup>3</sup> から MOE を算出すると 760,000 となる。このため、本物質の一般環境大気での吸入ばく露による健康リスクの評価に向けて吸入ばく露の知見収集等を行う必要性は低いと考えられる。

有害性の知見				ばく露評価		リスクの判定			評価	
ばく露経路	リスク評価の指標		動物	影響評価指標 (エンドポイント)	ばく露の媒体	予測最大ばく露量及び濃度				
経口	無毒性量等	0.4 mg/kg/day	ラット	体重増加の抑制	飲料水	— µg/kg/day	MOE	—	×	○
					公共用水域・淡水	0.00048 µg/kg/day	MOE	83,000	○	
吸入	無毒性量等	— mg/m <sup>3</sup>	—	—	一般環境大気	0.00017 µg/m <sup>3</sup>	MOE	—	×	(○)
					室内空気	— µg/m <sup>3</sup>	MOE	—	×	

#### 4. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、藻類では緑藻類 *Pseudokirchneriella subcapitata* の生長阻害における 72 時間 EC<sub>50</sub> 70,600 µg/L、甲殻類ではオオミジンコ *Daphnia magna* の遊泳阻害における 48 時間 EC<sub>50</sub> 52,000 µg/L、魚類ではコイ科 *Leuciscus idus* の 48 時間 LC<sub>50</sub> 99,000 µg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度 (PNEC) 520 µg/L が得られた。

慢性毒性値は、藻類では緑藻類 *P. subcapitata* の生長阻害における 72 時間 NOEC 39,100 µg/L、甲殻類ではオオミジンコ *D. magna* の繁殖阻害における 21 日間 NOEC 1,910 µg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、慢性毒性値に基づく予測無影響濃度 (PNEC) 19 µg/L が得られた。本物質の PNEC には、甲殻類の慢性毒性値から得られた 19 µg/L を採用した。

PEC/PNEC 比は淡水域で 0.0006、海水域では 0.0005 となるため、現時点では作業の必要はないと考えられる。

有害性評価 (PNEC の根拠)			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (µg/L)	ばく露評価		PEC/PNEC 比	PEC/PNEC 比による判定	評価結果
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (µg/L)			
甲殻類 オオミジンコ	慢性	NOEC 繁殖阻害	100	19	淡水	0.012	0.0006	○	○
					海水	0.0098	0.0005		

#### 5. 結論

結論			判定
健康リスク	経口ばく露	現時点では作業は必要ないと考えられる。	○
	吸入ばく露	リスクの判定はできないが、情報収集を行う必要性は低いと考えられると考えられる。	(○)
生態リスク	現時点では作業の必要はないと考えられる。		○

[リスクの判定] ○：現時点では作業は必要ない、▲：情報収集に努める必要がある、■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない

(○)：情報収集を行う必要性は低いと考えられる、(▲)：情報収集等の必要があると考えられる、(—)：評価の対象外、あるいは評価を実施しなかった場合を示す